

# 報 友 校 友 會 園 學 士 連 普

平成26年2月15日  
第 91 号

普 連 士 学 園 校 友 会 発 行  
東京都港区三田 4-14-16 郵便番号 108-0073

責任者 富山 恵子  
電 話 03-3451-7700  
F A X 03-3451-1959

校友会クリスマス礼拝

「主に責められるとき、弱り果ててはならない」

普連士学園非常勤講師 太田 信雄 先生

今日は「主に責められるとき、弱り果ててはならない」(ヘブル人への手紙12章5節-6節)をテーマに話を進めます。

皆さんも高校生に戻って聞いて下さいればありがたいと思います。

人生は素晴らしい。でもいい事ばかりだったら気付かない、もっと素晴らしい人生があるのです。

私は生徒連との授業の中で、いろいろな実験をしながら、人はその立つ位置によって物の見方が変わるものであると話しています。

ホワイトアウトと言う言葉をご存知でしょうか。これは南極などで時々起る気象現象で、上空に薄い雲が幾重にも重なったりするときに起こります。太陽の光は薄い雲を通過



するとときに乱反射します。次の雲を通過するときにまた乱反射します。それが繰り返され、地

表に到達する時はあちこちから光が届き、あらゆる物から影が消えるのです。白一色の世界は大地の凸凹もクレバスさえも認識できず、大変危険な状態に陥るのです。

人生には常に光と影があります。我々は光のみを求めますが、影がなければ物が正しくは見えないのです。人は影の存在に年中ぶつかり、光あれと願うのですが、ホワイトアウトは影の重要性を教えてください。

私は小・中学生の頃、軽度の赤面対人恐怖症という疾患を持っていました。授業中教師の勉強に対する質問には答えられるのに、昨日は何をしていたのかとの質問には、答えが頭では分かっているにもかかわらず出なかったのです。顔が真っ赤になって友人からは、からかわれました。特に女子は厳しく、すっかり女の子が嫌いになってしまいました。でもこの体験を生かせる仕事に付きなさいとの暗示だったと思うのです。

その後大学を出て、昭和女子大の

付属に五年、普連士学園に三十七年の長きにわたって、女子校の教員として過ごしました。今では女子は大好きです。また十数年前から腎臓を患い、今も週三回の透析を受けています。この様な影の体験をしたことよって、他に対して優しくなれたと思います。

今日のテーマ「主に責められるとき、弱り果ててはならない」の主旨を体験して、自分のものにしなさい。体験しない限り、同じ痛みを持つ者の痛みを理解することは出来ないのです。他に対して愛をもつ事が出来ないのです。

クリスマスが近づきました。クリスマスに生まれたキリストは三十年後に十字架につき死ぬために生まれました。この神の責めは人間イエスにとっては地獄だったでしょう。「この杯を取り除いて下さい。でも心になりませうように」と祈られました。この十字架があるから、復活が約束され、昇天が約束され、永遠の命が約束されたのです。イエスが十字架にかかられたから、私達は天国を知ることが出来たのです。

2013年12月14日にお話されたものを編集担当が要約しました。

## 史料室準備中

### 普連土学園史料室

六年前、高木ルイザ先生が、学園の姉妹校でオーストラリアのタスマニアのホバートにあるフレンズ・スクールを訪れた際、その史料室（アーカイブス）に大変感銘を受けられました。1887年、本学と同じ年に開校されたホバートのフレンズ・スクールでは、先生方がその素晴らしい史料を活用しながら、歴史の授業や数学の授業も行っていました。

そこで、高木先生は、このような史料室が、私たちの学園にもあったら素晴らしいだろうとお考えになり、ホバートから戻られてすぐに、普連土学園の歴史に詳しい先生と、学園の写真の整理に長い間携わってこられた先生方に、そのお話をなさいました。そして、図書館の先生方や校友生などの協力で、アーカイブス委員会が設けられました。

2010年より六回にわたって座談会が開かれました。座談会には、44回生、52B回生、53回生、54回生、56回生、57回生、58回生、61回生の校友生の方々が集まり、在学時の

思い出をそれぞれに語って下さいました。

また、委員会は2010年からの三年間は、バザー会場の一隅をお借りして、「校舎・校服」、「体育」、「遠足」をテーマに小さな写真展示をしました。「校服」の展示では、校服の変遷を示す寺山さん（82回生）製作の人形も飾られ、好評でした。

現在は、写真整理を長年お手伝い下さっている退職された先生お二人と、校友生（83回生、98回生）二名が、史料室で、写真と文書などの整理を行っています。

#### \*\*\*写真の担当より\*\*\*

写真については、教諭館一階の「百年準備室」で三人の校友生有志が分類整理を始めて下さり、それを引き継ぎました。

たくさんのお貴重な写真ですが、整



寄宿舎前庭で調読びに興じる生徒たち  
(大正10年頃 後方は教諭館)

理は簡単ではありません。大きさ、内容、状態がいろいろですし、時期や内容、人物等が不明なものは史料としての意味を持ちません。写真の保存方法を教わり、「普連土学園百年史」などを参考に、手探りでです。写真を通して、お会いすることのなかった先人の志に触れて体が震えたり、不明だったことが分かったとあって大喜びしたり、知らないことの多いのに気付かされたりしております。古い白黒写真には、最近の写真にはない何か強い力があると感じます。



戦時の大空襲で焼けた校舎跡での横顔のひととき  
(昭和23年)

火事や戦争により、学園の多くの史料が消失し、特に、開校当時（普連土女学校時代）のものが、ほとんど残っていないことはとても残念です。明治、大正、昭和初期の写真の中には、戦後、米国友会の日本委員

会などから寄贈されたものも多く、有難いことです。戦前（31〜50回生）の卒業記念写真に、欠けているものが多いことも大変残念です。これからも続く作業ですので、どなたかお手伝い頂けないものかと願うこの頃です。

#### \*\*\*文書などの担当より\*\*\*

学園とゆかりの深い品々や記事などの整理を始めて下さっていた方のお手引きで、昨年の春からお手伝いしております。

様々な史料を前にして手探りでの出発でしたが、恩師の先生方が手を差し伸べて下さり、また、見えない多くの手にも導かれて、ばらばらだった文書や品々の一つ一つに道筋をつけていけそうな気がしています。

古いお菓子の箱や、使用済みの破れた封筒、色あせた新聞紙などに大切に包まれていた史料を紐解くと、それらを遺された方々のお気持ちを感じます。この細くて長い学園の歴史の糸がこれからますますと守られていくことを願いながら、皆様にお使いいただける史料室を目指していきたいと思っております。

学園にまつわるエピソード、品々など、お待ちしております。

# バザー

バザー委員長 校條 和子(72回生)



2013年11月9日、後援会と共催の大規模なバザーが、青空の元、華やかに開催されました。会場は、1300人以上の来場者で満ち、校友会売り場には、162名もの方々がお手伝い下さいました。

中学校舎内の10ヶ所に点在している売り場には、一年がかりの真心の込められた手芸品、各地の校友生が、お送り下さった感謝溢れる献品の品々、皆様へ少しでも良い品を御紹介しようと奔走、努力して仕入れた委託食品、洗浄して磨いて、手間隙掛けた献品アクセサリ、福祉施設から委託された手作り品等々が、創意工夫して並べられ、好評の内に、販売されました。

7月にバザー委員会が発足し、嬉しい限りの沢山の献品の品々を美しく値付けし、献品アクセサリののびに増えつつあるピアスに世の流

れを感じ、手芸部の手作りネットワークの底力に感服し、4ヶ月という短い期間内を、短距離ランナーの如く、11月のバザーに向けて、ひたすら走り続けました。

仕入れ商品を扱い、苦勞の多い委託部に、80回生代の新しいリーダー達が誕生しました。莫大な数の委託食品を販売していく姿は、本当に逞しく頼もしい限りです。

長い年月、御参加頂いている先輩校友生方の中に、90、100回生代の若い方も溶け込み、忙しい中、和やかな雰囲気包まれながら、時が流れて行きました。

50、100回生代と広範囲の年齢層の方々が、一同に会し「大変！でも楽しい！」と、交流の場を持てた幸せに感謝し、今後共、幅広く皆様のお力添えを頂きたく、御参加をお待ち申し上げております。

## 2013年度バザー会計報告書

2014年1月12日  
単位：円

摘要	売上	仕入	収益
アクセサリ	117,250	4,263	112,987
委託	1,756,940	1,218,920	538,020
献品	323,170	—	323,170
手芸	600,960	42,743	558,217
雑費	13,500	6,100	7,400
合計	2,851,820	1,272,029	1,579,794

部署	単位：円
社会福祉法人かがやき会就労センター(タッキー)	26,500
社会福祉法人武蔵野会貴田谷区立駒沢生活実習所(清泉ボンボン)	9,000
特定非営利活動法人STORY(石織)	8,750
ワークショップ野の花(ビーズアクセサリ)	1,850
合計	46,100

また、皆様の力合わせた収益が、やがて学園への御寄附と成ります嬉しい出会い、この伝統ある素晴らしい普通士学園のバザーが、何時迄も賑々と受け継がれて行きます事を祈って止みません。

そして、バザーが如何に大勢の方々の御協力により、進められるのか、痛感致し、この度の開催にあたりまして、心より皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。



献品売場準備中

## 校友生司会の全校礼拝

毎年秋に、学園の全校礼拝を校友生が担当しています。

昨年も82回生、97回生、100回生の方たちがお話しをして下さいました。社会に出てから経験したこと、仕事を通して考えついたことなど、生徒の心に響いたことと思います。

### 自分に合った洋服を探して

82回生 生田 かおる

小学校四年生の三学期、私は学級副委員に選ばれた。母がそのことをとても喜んだのを、今でも覚えている。副委員であろうとも、私は母の期待に応えたのである。

小学校低学年の頃、私はおとなしい子だった。保護者面談で、担任は「わかっているのに手を挙げて発表しません。残念です」と、私の授業態度を評価し、モダンバレエを習うことを勧めたという。バレエで人前に立ち、表現することが発表能力を

育てる、との説みが担任にはあったらしい。四年生になると塾に通うようになり、勉強に自信がいった。バレエの効果も現れ、私は授業中、発言できるようになっていた。こう育ってほしい、という母の思いを私は実現しつつあった。

中学入学後も、私は勉強に励み、母の期待に応えた。老人ホームや子ども寮にボランティア活動に行く。母は喜んだ。母が喜ぶと私は安心したものである。中学二年の春、今までに会ったことがないタイプの先生が着任された。その先生はこの学校の生徒は、何で自分で考えないの。何で、まず、勉強なの」と私たちに話された。その時の私には、自分で考えるという意味がわからなかった。

高校に入学する頃から、これまで当たり前に行ってきた勉強にこだわらなくなった。成績は下がった。学校から帰ってきて、仮眠をとり、夜中に起き出し、ラジオの深夜放送を

聴き、親とはほとんど口をきかない日々。その頃の私は、母の価値観からすると無駄と思えることをして、自分にじっくりする何かを探していたのだと思う。この時、母が私のことを見捨てず、待っていてくれたのは救いだった。

しばらく母を喜ばせることを止め、母の考え方を閉め出していたら、心理学を勉強しよう、という目標ができた。初めて自分で考え、決めた目標だった。自分で決めることができ、私はまた歩み出した。

小さい時の洋服が大きくなると思われなくなるように、親の期待に応えるだけの生活に疑問をもつことがあると思う。ご自身の関心事を窓口、自分に合った洋服を探していたきたい。

(臨床心理士)

### 大切なこと

97回生 熊澤 美穂

おはようございます。今日は私が今まで経験してきた結果、大切だと思っている事を五つお話ししてみます。

まず一つ目は自分軸。ぶれない軸を持つ事です。一人の人間として自

分の足でしっかり立つためには、周囲に流されない、自分の考え方、主体性を持つ事が必要です。それは自分の行動に責任を持つ事にもなります。普校から周囲にアンテナをはり、様々な情報を仕入れた上で、その是非を判断する、見極める目を養って行って下さい。物事を見極める目を養う事は、自分のぶれない軸を持つ事でもあるのです。

二つ目に人脈、人との繋がりがです。周りの人を大切に、そして感謝の気持ちを忘れないで下さい。人は一人では生きていけません。沢山の人のおかげで生きています。一人で出来る事には限界があるけれど、力を合わせれば世界が広がります。騙る事なく、周りの人に対する感謝の気持ちを忘れずにいる事が、自分の世界を豊かにします。

三つ目は人と比べない事です。何でも出来る完璧な人はいません。何も出来ない人もいません。皆それぞれ素晴らしいのです。皆、尊重されるべき人なのです。ですから、この世にたった一人しかいない自分を大切に、大好きでいて下さい。自分に自信を持って下さい。

四つ目は、地道な努力です。何事も近道や楽な方法を選ばず、ひとつ

ひとつの事を丁寧にこなしていく事です。自分の目標を成し遂げるには、地道な作業の積み重ねと粘り強い努力が必要です。近道はありませんが、集中して取り組む事により、達成するまでの時間を短縮する事はできるでしょう。また、そうする事によって、集中力や精神的な強さが育ちます。

五つ目は遊び好きになる事です。ビジネスもプライベートも、どちらも充実させる事が、人としてバランスのとれた成長を促していくと思います。その結果、人としての魅力、幅が広がり、深さが増していくでしょう。

最後にお伝えしたいのは、是非、沢山の方の話を聞いて下さい、沢山の経験をして下さい、という事です。何故なら、経験した事全てが自分を作っていくからです。そして、お互い後悔のない人生を歩んでいきましょう。(セミナー講話)

グローバルで活躍するために、今から準備できる4つの行動

1000回生 秋草 美奈子

私の会社が行った世界中の組織と

リーダーに関する長年の研究によると、人の「能力」は「筋肉」と同じで年齢に関係なく努力次第で鍛えることが可能です。また、優秀な人材には国籍に関係なくある共通した「能力」が見られることも分かっています。

つまり、日本人だろうとアメリカ人であろうと老若男女を問わず、優秀な人は世界共通して同じ行動をとっているのです。今日お話しするのは、今から意識すれば、将来、確実に皆さんの武器になる世界のリーダーに共通して見られる「4つの行動」についてです。

1. 新しいことを積極的に学ぶ

(Willingness to Learn)

優秀な人は世界共通して、簡単に理解できなくても諦めません。

2. 多様な意見や情報を参考にする

(Breath of Perspective)

優秀な人は世界共通して、「もっと良い意見があるかもしれない」と常に他者に耳を傾け、自分の意見に取り入れていきます。

3. 前向きな心

(Personal Maturity)

優秀な人は世界共通して、「失敗は学びのチャンス」「今日より明日はよくなる」と信じています。

4. 相手を理解する

(Understanding of Others)

4つの中で一番重要な項目。相手の話を真剣に聞くだけでなく、相手の言外の「感情」や「発言の意図」も含めて理解すること。

シンプルですが、これらが身につけば世界中でも通用するといっても過言ではありません。また、ぜひ覚えておいて欲しいのは、世界のリーダーはこれらの「行動」を10代〜20代の若い時に身につけたということ、そして若い時に身につけた「行動や能力」ほど持続し、将来、道を切り開く「武器」になるといえます。今からまずどれか一つ選び、少し意識して生活してみてください。

私が社会に出て感じるのは、テストの点数以上に「何を発言し、どう行動するか」が重要であり、このような「行動」を鍛えるのに普通土学園は素晴らしい環境だったということです。普通土学園で過ごせることに感謝し、自信をもって社会に出て行ってください。みなさんの今後のご活躍を期待しています。

(外資系コンサルティング会社)

シニア コンサルタント

## 八十歳になりました

昭和20年に入学され、同26年に卒業された58回生の皆様が80歳になられました。

今年も浦口先生のお描きになった花絵葉書をお贈りしました。御礼のお手紙の一通をご紹介します。

▲此の度は私共の傘寿のお祝にわざわざ浦口先生の絵葉書をお送り頂き有がとうございました。私は浦口先生に英語をお習いした覚えがあり、又、冨山とき先生には入学の時から校長先生としてご指導頂き、母も学生時代にお習いした事があると申しなつかしく感謝しております。

▲校友会より懐かしい浦口真左先生の「野の花」頂戴し心より感謝申し上げます。改めて六十年より前の在学中の事思い出しております。

▲お陰様にて、元気で飛び廻って居ります。写真界は十年前に引退しまして、今は手話でボランティアをして居ります。本当に有難うございました。

◆お便りを下さった方々(敬称略)

塩崎妙子 佐藤道子 伊藤益子  
加藤近子 高岡敦子 川田良江



## 生徒の言葉から

普通土学園非常勤講師

山本 幸子 (68 回生)

普通土学園の事をいつも気にかけて下さる校友生に、最近の生徒の言葉を通して、近況をお伝えします。「宗教」の時間に高校三年生が書いた文を抜粋、要約しました。テーマは「残す言葉」と「私の受けた宗教教育」。昨年の十二月に書かれました。

一人でトイレ掃除をしていた級友。見返りを求めずに人の仕事を手伝う人達。学園のアットホームな雰囲気は、そのような行為から生まれる。◆毎日の礼拝は本当に沢山のものを与えてくれた。沈黙の礼拝では、心

を鎮められた。クラス礼拝で級友の真心を知った。礼拝の中で普通土生の優しさや結束が育てられる。

◆生涯大切にしたいクエーカーの考えや聖書の教えがある。「一人一人の中にある神の種」を信じる事が、「個人を尊敬し愛する」基なのだ。

◆優しい友人や教職員との居る楽しい空間が大好き。礼拝や英語教育、ボランティア活動や献金が私の誇り。

◆魅力的で尊敬できる先生方、先輩達は憧れの存在。興味深い話や思いやりある助言。一生懸命な授業、笑顔の挨拶。いつまでも忘れない。

◆真面目に物事に取り組む人達の居る環境で、私も成長できた。何事も疎かにしないで、よく考え、人に流されないことの大切さを学んだ。

◆キリスト教主義の学校であつても、特定の価値観を押し付けることは無かった。クエーカーを一つの生き方として捉えることを教えられ、受け入れ易かった。

◆高一のときクエーカーズパイシーズ(重んじている実践)の発表をした。「共同体」を小学生にも分かるように楽しく表現した。イエスも弱い立場の人々を助けて共同体を愛した。私も共同体を大切にしたい。

◆礼拝でこれほど多くの人の話を聴

く機会は、他校では得られない。様々な考えを知ることで、自分の意見も固まっていた。大事な時間だ。

◆グローバル化の時代に、キリスト教だけでなく、様々な宗教について学べたのは幸運だった。国際的な人間理解には必然的なことだと思う。

◆嫌な事があつても、学校で皆と話をしていると元気になった。お互いの事を深く理解し、大切に思い合う関係が学内にあつたから。

◆授業や礼拝の話から、教養の大切さを知った。先人観や無知のせいで狭い考えに固執したくない。進路は悩みに悩んで自分で決断した。自分を信じる事が大事だと学んだから。

◆学校で出会った教師や生徒達に強い影響を受けた。人間的に素晴らしい人達が居た。海外からの訪問者の話も刺激的だった。人格形成期の豊かな出会いはかけがえが無い。

◆学校生活では嫌な事もある。だが、何事も全力で取り組むと、得られるものが沢山ある。その姿を見守り、理解してくれている人が必ずいる。

◆日本で唯一のフレンド派の学校に入学したのは運命的。警戒するべきものと思っていた宗教が、大切な人生の規範となった。多様な人々を差別することなく受容するクエーカー

の生き方に共感する。

◆学園での宗教教育や奉仕のプログラム、ジョージ・フォックスツアー等から、宗教や愛といった目に見えないものを信じることの価値を知った。ゆるぎない生き方と平和を生み出す力を得ることができた。

◆礼拝で始まり礼拝で終わる学園生活全体からフレンド派の大切な精神を学んだ。人の為に働くこと、お互いを尊重して譲り合う事などが当り前に思えるようになった。外の世界で孤立した時は母校が拠り所になる。

学園で培った力が試されるのはこれから。卒業生の期待に応えられる母校であり続けられる事を祈ります。



普通土たより 学校近況

百六十二巻

第51回学園祭(10月26日)のテーマは「Milky Way」星の欠片を集めて」でした。この言葉には、天の川がそれを構成する一つ一つの小さな星の光の集まりで河のような大きな存在を示すように、全校生徒一人一人の小さな輝きを結集させることで素晴らしい学園祭にしようという思いがこめられています。台風の接近で直前まで開催が危ぶまれましたが、様々な人々の協力を得ながらも、学園祭実行委員会を中心に全校生徒が力をあわせることで開催が実現し、多くのお客様に楽しんで頂くことができました。

11月9日には後援会・校友会共催のパザールが聞かれました。当日は天候にも恵まれ、多くの校友生、受験生、保護者の皆様が来校され大盛況でした。皆様の御協力と御支援で無事終了することができましたことを心より感謝申し上げます。

11月14日には宗教講演が行われました。今年度は川崎境町教会牧師の今野善郎先生が「福島で震災を体験して」という題でお話をしてくださいました。震災の夜、皆で避難した場所で見えたきれいな月と星を通し

て、「人間は大自然の中で生かされているということを知ることが私たちに伝えようとしているのではないかと感じたことや、福島の高校生が、「福島で生まれ育ち勉強して働き、結婚して子どもを生み育て、孫や曾孫見て最後の時を過ごす」という当たり前だと思っていたことが、今や「夢」となってしまうこと等、様々なエピソードを語りながら、生きる意味についてあらためて私たちに問いかける内容でした。

12月19日の午後には、本校の卒業生でピアノの生田美子さん(97回生)によって「生田美子とその仲間たち」と題したクリスマスコンサートが行われました。生田さんは、自己の演奏活動の原点となった本校での讃美歌伴奏や奏楽の経験を活かして編曲した曲をはじめ全12曲を美しく演奏してくださいました。

12月20日のクリスマス・マス・礼拝では、日本基督教団代々木中部教会牧師の北川正弥先生が「人とつながれた神」と題してお話をしてください。生徒の皆にとってクリスマスを迎える良い準備となりました。

(大井 治先生記)

バスツアーに参加して

66回生 鈴木郁子

十月三日(木)はお天気も良く初めてのバスツアーに出発しました。田町駅を出てから東山魁夷記念館↓栗州亭(すいす亭・旧スイス大使館)↓ホキ美術館とまわり海はたるを經由して帰るという行程でした。

最初に訪れた東山魁夷記念館では作品の背景となった時代などを当時の写真を通して知る事が出来ました。隣りにある先生の御自宅には今は奥様が住んで居られるそうです。とても質素なたたずまいのその家は、周囲の風景に溶け込んでひっそりとありました。栗州亭での昼食は、手入れたの行き届いた庭を眺めながら和食を頂きました。このお食事は好評のようでした。最後に訪れたホキ美術館は、

写真絵画専門美術館で作品についての解説もして頂きました。女性を描いた作品は特に美しくまるで写真を見て居るようでした。

なかなか行かない所を組み合わせて連れて行って下さった今回の金

園は、とても有難いものでした。ホキ美術館はもつと時間をかけて見たかったのですが、また行きたいという方も居られました。バスがゆったりしていて良かった。また参加したいなどの感想を頂きました。

帰途に立ち寄った海はたるでは潮の香りいっぱいの海を眺め、夕景の美しさに見とれました。今回は51名の方が参加されました。事故も無く皆元気で解散となりました。事業委員会の方々には大変お世話になりました。また、大変お世話になりました。お話を聞いて居ります。今日一日は日常の雑事を忘れてゆっくりと過ごし友人とも話が出来ました。とても良い時間を過ごせたと思いきや夕暮れの街を帰って来ました。



東山魁夷記念館

## 校友会だより

### ◆校友会総会のお知らせ

2014年度の校友会総会を左記の要領で開催いたします。

日時 5月31日(土) 11時

会場 普通士学園新渡戸福道ホール  
ル/ローズホール

第一部では礼拝と校長先生の学校報告の後、事務会になります。事務会では2013年度の年次報告と決算、2014年度の年次計画と予算案が議題です。事務会の後の催し物は準備中です。

第二部はローズホールで昼食、歌謡とコーラス、校歌で閉会します。

詳細につきましては4月下旬までに往復はがきでご案内いたします。大勢の方の出席をお待ちしております。

なお、欠席の場合も必ず返信下さいますようお願いいたします。

### ◆事業委員会から

映画会のお知らせ

日時 3月15日(土)

13時開場 13時30分開演

場所 普通士学園A音楽室

\*上履きをお持ち下さい

\*参加費無料 申し込み不要

### 映画「星の族人たち」

どうしても心を通わすことができなかつた一人息子タニエルが、サンティアゴ・デ・コンポステラへの巡礼の途上、不慮の死を遂げたことを知ったトム。息子は何を想い巡礼の旅に出たのか、それを知りたくて、彼は息子が断念せざるを得なかつた巡礼の旅の残りを息子の遺灰と共に歩き始めた。

美しい巡礼の旅も、この映画の見所です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

### ◆運営費納入者芳名簿の追加

「会報」90号に同封しました「運営費納入者芳名簿」にお名前もれがありました。お詫びしてここに記載いたします。

平成二四年度(二〇一二年)運営費(平成二四年度四月一日～二五年三月三十一日)

63回 小平 弘子

### ◆校友会事務局からのお願い

住所、氏名など変更された方は速

やかに手紙、電話、FAX等でご連絡下さい。「会報」が戻って来ておりますのでよろしくお願いたします。

計報につきましても同じくご連絡下さい。校友会からお悔やみカード等をお送りしております。

事務局は火曜日・金曜日の10時～16時の間開いています。この時間内にお問い合わせ下さい。

電話 03・3451・7700  
FAX 03・3451・1959

### ◆出版委員会からのお願い

「会報」の編集に参加して下さいの方を募集しております。「会報」は年2回、7月15日と2月15日に発行しております。発行の3か月程前から集まり、企画、編集、校正などの編集会議を開きます。発行までに7～8回集まりますが、それ以外の時は活動はありません。お手伝い下さる方、よろしくお願いたします。

## 訃報

謹んでお知らせ申し上げます。心より哀悼の意を表します。

38	池上須磨子(池上)	13・4・20
46	黒崎 朝子(白石)	13・6・5
45	長原 鞠子	13・10・1
47	南 良子(興田)	13・5・12
47	本橋 満(田村)	13・10・18
48	御崎みどり(島原)	13・6・13
49	安田 恵美(津橋)	12・9
51	三輪 俊(納谷)	13・5
51	角田 裕子(佐藤)	13・6・3
54	三宅 利子(松野)	13・4・29
55	中田 静江(中島)	13・9・3
58	小堀 雅(松野)	13・9・1
61	伏見いつ子(鹿)	13・4・30
61	定方 穂子	13・11・14
62	松本 寛子(今井)	13・9・10
66	星田万恵子(妻)	
68	木村壬子	13・4・30
68	田口佳都美(小黑)	13・6・9
71	山根まさ子	13・6・13

### 編集後記

二月に入り厳しい寒波に見舞われ、都心でも四十五年ぶりの積雪が観測されました。

この寒さの中、中学校、高校、大学の入学試験が行なわれています。

普通士学園でも、一次・二次・三次

と三日に渉り入試があり、合格者も決定したようです。

四月には、若い希望に溢れた新入生を迎えることとなります。楽しみですね。

(千田・田中・馬杉・鈴木・赤石・森本)